

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H30-06	課題名	畜産物に含まれる抗菌性物質等の分析技術の開発に関する研究					
期間	2019～2021年度	担当部科室	保健科学部 衛生化学科					
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 晴れの国おかやま生き活きプラン Ⅲ①保健・医療・福祉充実プログラムの個別事業計画に定められた「岡山県食の安全・食育推進計画（平成30(2018)～34（2022）年度）」基本理念及びスローガン「いつでも安全で安心なおかやまの食卓」に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 県民意識調査によると、食品の安全性については、「安心」、「不安」、「どちらでもない」と感じる県民で三分されている状況であり、県民の不信感を解消するためには、食品の安全・安心を揺るがす事件事故を防止し、食の安心の定着を図る必要がある。 他方、全国では畜産物中の抗菌性物質等が残留基準を超過した事例が発生していることから、県内でも同様の違反事例が起こる可能性がある。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 抗菌性物質等の残留が疑われる事案等に迅速に対応するには、あらかじめ網羅的に分析法を開発しておく必要があるが、民間の分析機関では困難であり、県民の食の安全を確保するために県で実施すべきである。</p> <p>4 事業の緊要性 分析法が確立できていない畜産物に含まれる抗菌性物質等もあるため、これらの迅速な測定が可能な分析法を開発することにより、残留基準を超過した畜産物を速やかに発見し健康被害発生等を未然に防止できる体制を整備することが喫緊の課題となっている。</p>							
	調査研究の概要	<p>1 目標 畜産物（はちみつ、牛の筋肉等）において、現在開発中の一斉分析法での検査が不可能なテトラサイクリン系及びアミノグリコシド系の抗菌性物質等の系統別分析法を開発する。</p> <p>2 実施内容 LC-MS/MS等を用いて、まずは、夾雑物が少ない畜産物（はちみつ）で基本的な分析法を開発し、次に、畜産物で重要視される牛の筋肉等の分析法を開発する。</p> <p>3 技術の新規性・独創性 畜産物の抗菌性物質等を機器分析する場合は、個々の検査機関で分析法を開発し妥当性評価を行う必要があるため、その過程において新規性・独創性のある分析法の確立に繋がる可能性がある。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現の可能性 あり 難易度 中程度</p> <p>5 実施体制 5人</p>						
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 県が行う収去検査等の食品衛生監視指導に直ちに活用でき、抗菌性物質等の残留状況の把握、基準を超過した畜産物の早期発見に資する。</p> <p>2 普及方策 確立された分析法を年報等に取りまとめ、状況に応じて関係する学会等で発表する。</p> <p>3 成果の発展可能性 分析対象の食品や検査項目は今後も拡充していくため、当該研究に要した手法を今後の研究に活用できる。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	2019	2020	2021
・基礎的な分析法確立 ・牛の筋肉等の分析法確立 及び対象食品の拡充				計画事業費	553	553	553	1,659
		一般財源		553	553	553	1,659	
	外部資金等	0		0	0	0		
人件費(常勤職員)	8,000	8,000		8,000	24,000			
総事業コスト	8,553	8,553		8,553	25,659			
					(単位：) 千円			